

第4回大阪市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会 保健福祉部会 会議要旨

- 1 開催日時 平成26年9月19日(金) 14時00分～
- 2 開催場所 大阪市役所 屋上階 P1 共通会議室
- 3 出席委員 早瀬委員(保健福祉部会長)、中尾委員(保健福祉部会長代理)、大槻委員、野口委員

4 議 題

- 1 介護保険制度の改正及び第6期介護保険事業計画について
- 2 次期「大阪市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定について
 - (1) 計画(総論部分)の原案について
 - (2) 日常生活圏域の設定について
 - (3) 計画(各論部分)の原案について
- 3 その他

5 配布資料

- 資料1 介護保険制度の改正及び第6期介護保険事業計画について
資料2 次期「大阪市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の総論(原案)
資料3 第6期計画における日常生活圏域等の考え方について
資料4 次期「大阪市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の各論(原案)

(参考資料)

- 1 次期「大阪市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定スケジュール

6 会議要旨

【議題1】

事務局から、資料1に基づき介護保険制度の改正及び第6期介護保険事業計画について説明。

(主な意見等)

- ・ 国の資料には、新しい総合事業のサービス部分に住民主体の活動というのがあるが、具体的にどういった住民を想定されているか。
- ・ 質の担保のための検討が必要になると思う。

【議題2(1)】

事務局から、資料2に基づき次期「大阪市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の総論(原案)について説明。

(主な意見等)

- ・ 75歳以上では認知症が増えてくるし、関節疾患の方も増えてくるので、しっかりケアしないとどんどん悪くなる。75歳を見据えたときに予防をきっちりしないと

いけないと思っている。

- ・ 75歳以上の後期高齢者の方の検診の受診率が伸びてこないと言われている。地域包括等と連携するなど含めた受診勧奨をするようにもっていかないとなかなか難しい。
- ・ 健康寿命と平均寿命の10年の差を少なくして、できるだけ要介護状態にならない高齢者を増やしていき、元気で健康な高齢者が多くあるような大阪市にもっていくという視点を少し入れて頂きたい。
- ・ 高齢者が増加しているが、老人クラブ等に入会するメンバーは減ってきている。元気に動くことが介護状態にならない秘訣だと考えている。老人クラブに入っていたき健康づくりを頑張っていたことが介護予防になると考えており、そういう視点で計画の検討を進めていただきたい。

【議題2(2)】

事務局から、資料3に基づき第6期計画における日常生活圏域等の考え方について説明。

(主な意見等)

- ・ 医療・介護総合確保方針では医療は二次医療圏域で、介護は日常生活圏域で構築となっている。
- ・ 在宅医療の連携拠点は区単位で、きっちりとした対応は地域包括の圏域とすることが、住まわれる方にとっては安心した医療提供になるのではないかと考えている。

【議題2(3)】

事務局から、資料4に基づき次期「大阪市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の各論(原案)について説明。

(主な意見等)

- ・ 地域包括の役割の図は、国資料の今後の図と異なり、生活支援コーディネーターや地域ケア会議のことが入っていない。
- ・ 地域包括の運営の評価については、今後、全部の評価をとというのは難しいと思うが、どこかキーになるところをアウトカムの評価するよう検討してもらいたい。
- ・ 全国のケアメンサミットの報告で、男性介護者は3割であるのに対し、虐待の主体は7割が男性介護者となっているという報告があった。虐待防止を考えるときに、男性介護者の問題は重要と思う。
- ・ ひとり暮らしの高齢者は様々な法的なトラブルに巻き込まれることも多いと思う。弁護士介入等が必要となった場合にきちんと繋いでいただけているのかどうか。
- ・ 在宅医療の文章案は、もう少し市民にわかりやすい文章にしていきたい。また、在宅医療の相談窓口について、きっちり決めて書いていただきたい。
- ・ 包括的支援事業に新たに4事業が入り、機能強化型を作るという記載になっているが、果たして66箇所で機能強化型が育成されていくのかは疑問。
- ・ 地域包括支援センターは、地域包括ケアの中核機関として位置付けられているので、市が保険者として、どのような体制とするか(機能強化や基幹型など)きっちりとして

検討いただきたい。

- ・ 生活支援サービスの主体が大きく変わるため、そのあたりについての書き込みが必要。

【議題3】

その他については、特になし。